

◆ 基礎情報

計画名	伝統文化企画におけるリーダーシップ開発
実施責任者	学生支援課学生生活支援グループ 城島 瑞貴
対象者	被服平面造形研究室 4年生 8名 / 美術部 3年生 1名 / まんが研究会 3年生 2名 きもの着付け倶楽部 4年生 1名・3年生 3名・2年生 1名
実施期間	2025年5月～9月

◆ 取組み概要

●全体の概要

7月7日～7月11日に「被服平面造形研究室」と、公認学生団体である「きもの着付け倶楽部」「美術部」「まんが研究会」の学生が連携し、日本の伝統文化に触れるイベント「浴衣WEEK」を企画・実施。例年実施している「浴衣Day」から、より多くの学生や教職員が参加する全学的なイベントとするために、各団体の学生が協働し、その中で、個々が自身のリーダーシップを発揮する機会とすることを目的とした。

●参加学生・運営体制

田中淑江教授、被服平面造形研究室、きもの着付け倶楽部顧問及び所属学生、美術部、まんが研究会、学生支援課

●学生の役割分担

- ・被服平面造形研究室:「浴衣のいろは 夏を愉しむ」と題し、本館ロビーで浴衣を展示
- ・きもの着付け倶楽部: 学生・教職員の持参した浴衣を無料で着付け
- ・美術部/まんが研究会: 浴衣の着用を促すフォトスポットを作成
- ・その他、学内での浴衣販売、短冊スポット設置、学食かき氷チケットの配布

◆ 取組み全体の流れ

【5月中旬】

●キックオフミーティング実施

- ・取組みに参加する学生へ企画概要の説明、共立リーダーシップについての説明
- ・チームごとの取組みの全体目標と個人の目標設定

【5月下旬～7月】

●団体ごとに準備

- ・被服平面造形研究室: 展示準備
- ・きもの着付け倶楽部: 着付け練習、ポスター作成、Instagramによる広報活動
- ・美術部/まんが研究会: 画像イメージ作成、入稿用データ作成

●隔週で全体ミーティングを実施し、他のチームへの進捗や課題の共有

●職員と各チームでミーティングを実施し、進捗確認

【7月】

●浴衣WEEK実施

- ・被服平面造形研究室: 展示設置
- ・きもの着付け倶楽部: 学生や教職員の着付けサポート
- ・美術部/まんが研究会: フォトスポット設置
- ・その他: かき氷引換券、短冊スポット設置

●振り返り用Googleフォーム記入

【9月】

●振り返りミーティング実施

◆ 取組みの成果

●各担当・チームごとに重点的に伸びた能力と総括

- ・被服平面造形研究室:【包容性】様々なアイデアが出ることに理解と敬意を持っていた。
- ・きもの着付け倶楽部:【能力全体】準備期間から着付け本番まで、メンバーの能力を考慮した連携、支援が行っていた。
- ・美術部/まんが研究会:【相互支援】事情が異なる別のサークルメンバーと協働できていた。

●浴衣WEEKの認知拡大(以下の各数値より)

着付け体験者数(目標延べ140名に対し延べ193名)、かき氷引換券配布数(延べ413枚)、書かれた短冊の枚数(約500枚)

◆ リーダーシップ教育に関する実践

<p>共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●活動開始時に共立リーダーシップについて理解を深めるために説明し、個人の目標と、チームや取り組みの目標を設定した。 ●隔週を基本として定例ミーティングの時間を設け、当月の取り組みについての振り返りと進捗状況を確認した。
<p>協働活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●他学部、他学年の学生と、異なるチームでそれぞれ役割をもって浴衣WEEKの実施に向けて活動するため、チーム内での協力に加え、他のチームと協力して行うポスター制作などでは、互いに意見を積極的に出し合い受け止められるような関係性構築を工夫した。 ●全員で企画の方向性を一致させるため、初回にテーマを設定し、それに沿って各チームが制作や活動に取り組むことができたようにした。
<p>共立リーダーシップの観点での振り返り</p>	<p>振り返りミーティングは、学生が円滑に意見を出し合えるよう進行を工夫した。具体的には、まずリーダーシップ教材である自己評価シートを用い、個人の振り返りを実施した。その後、リーダーシップ教材のチームの振り返りシートを配布し、チーム単位での討議を行った。この手順により、共立リーダーシップの観点で、学生が個人で思考を深め言語化した内容に基づきチームで議論することが可能となった。その結果、学生は自身のリーダーシップの観点での成長を認識するとともに、他者からのフィードバックや他者の成長を認め合い、相互に学びを深めることができたと考えられる。</p>

◆ 学生の成長に関する総括

3チームは、それぞれが役割分担し、互いにサポートし合いながら短い期間で準備を進め、最初のキックオフミーティングで立てたチームの目標に向かって取り組み、リーダーシップの観点で成長することができていた。具体的には「取組みの成果」に記載した通りである。特にきもの着付け倶楽部の学生は、学生の振り返りシートやコメントの分析により、各要素において以下の特徴や伸びが見られた。

- ・目標の設定と共有: 「多くの人に浴衣を楽しんでもらう」という目標に対し、チーム全体で活動できていた。
- ・率先垂範: ほとんどのメンバーが自身の担当作業について積極的に発言や工夫をしていた。
- ・相互支援: 得意な作業が行えるよう調整し、浴衣の着付けについては分業体制を構築していた。
- ・包容性: 学年によるスキルの差を踏まえて、担当の割り振りや負担軽減、支援を行っていた。

一方で、学生の日々の活動を把握することに課題が残った。各チームが独立して活動していたため、職員や異なるチームの学生が、日々の活動の様子や成長過程を直接把握することが難しく、学生の成長を見ることができたのは、振り返りミーティングでの発表や自己評価シートなどの限られた機会のみであった。そのため、職員や学生が互いに、活動状況や成長過程をより密接に把握できるような仕組みを検討すべきであったと反省している。

◆ 取組みを通じた全体の所感

●効果について

- ・学生の成長: 所属や学年の異なる他の学生との協働の経験により、取組み開始前と比べ、各担当チームごとにリーダーシップ要素の伸びが見られた。また、多くの共立生がフオスポットで記念写真を撮ったり、企画を通じて学内を浴衣を着て過ごす様子が見られ、学生たちは大きな達成感を得ることができ、成長を実感できたと考えられる。
- ・認知度の向上: 展示、浴衣の着付け体験、フオスポットの設置といった活動により、伝統文化企画に関して、昨年よりも認知度を大きく向上させることができた。

●反省点

キックオフミーティングから本番までの期間が短くなってしまったため、各チームの学生および運営側も作業に追われることとなった。結果として、活動の途中段階で十分な振り返り(フィードバック)の機会を設けることができず、学生が自身のリーダーシップ目標とそれに対する取組みを意識的に振り返ることができる時間を与えられなかった点が、今回の大きな反省点である。

◆ 今後の展開

1. 他学部への働きかけと教員連携の強化

本年度は例年と比べ浴衣を着用する学生数が増加したが、主な参加学生が所属する家政学部以外の学部への働きかけが不足していた。そのため今後は、学内全体での企画として認知を広げるため、学生が教員の研究室に直接ポスターを持参し、教員の参加を促す。これにより、他学部教員の理解と協力を得るとともに、学生が教員とコミュニケーションをとる機会を創出したい。

2. 学内外への広報活動の強化

浴衣WEEKの認知拡大と定着を図るため、学内外への広報活動に注力したい。そのため、浴衣WEEKの実施前後で広報グループにも協力を仰ぎ、新聞社などの外部メディアにも働きかけることで、学外への周知を広め、本伝統文化企画の社会的な認知度と大学のイメージ向上に貢献したい。

この報告書に加え、別途、教職員向け、学生向けのアンケートを実施させていただきます。